

湯舟さん 萩原さん

元阪神

元近鉄

をゲストに

野球教室

小春日和のグラウンドで子どもたちに声をかける湯舟さん(右)、萩原さん



堺市職労が 結成60周年記念行事で



「おもしろい、おもしろい、おもしろい」

スッキリと晴れ渡った12月2日、堺市の大浜公園市民広場で、堺市職労が結成60周年記念行事のひとつとして、元プロ野球選手の湯舟敏郎さん、萩原誠さんの2人をゲストに野球教室をひらきました。野球部のメンバーはじめ、野球好きの組合員の家族や子どもたちなど約70人が早朝から参加しました。湯舟敏郎(元阪神)さんは「野球がうまくなるかどうかは、野球を好きになるかどうかにかかっている。みんな、ぜひ野球をもっと好きになってほしい。今日は一日しっかり楽しくやろう」と笑顔で子どもたちに話しかけました。

ユニフォーム姿で登場した2人は、ピッチングとバッティングにわかれてさっそく野球教室のスタート。二人のまわりにはたくさん子どもたちが輪をつくり、さっそく、子どもたちに「足をあげたときの重心とバランスが大切」「バッティングはタイミングが何より大事」と手取り足取りで、気さくに声をかけながら教室をすすめていました。

「おもしろい、おもしろい、おもしろい」



おおさか
自治体の仲間

発行：大阪自治労連(大阪自治体労働組合総連合) 2006年12月15日 No.215

〒530-0041 大阪市北区天神橋1-13-15大阪グリーン
会館4F ☎06-6354-7201 FAX06-6354-7206
E-mail:mado@osaka-jichiroren.jp
URL:http://www.osaka-jichiroren.jp

発行人/谷 真琴 編集人/西岡 健二
平成2年9月12日第3種郵便物認可
毎月15日発行(1部10円)組合員の購読料は組
合費に含まれています。

日時だよ!

全員集合

2007年新春の
主な行事・とりくみ

- ・1月5日(金) 大阪自治労連新年講演会・2007年新春旗びらき(大阪グリーン会館)
- ・1月9日(火) 新春宣伝行動
- ・1月10日(水) 大阪労連2007年旗びらき(国会会館)
- ・1月10日(水) 堺市職労結成60周年記念レセプション
- ・1月13日(土)~14日(日) 自治労連組織集会(京都農協会館)
- ・1月16日(火) 公衆衛生部会交流会(大阪グリーン会館)
- ・1月20日(土) 大阪労連第34回臨時大会(エル大阪)
- ・1月20日(土) 松原市職労結成50周年記念レセプション(松原商工会議所)
- ・1月20日(土)~21日(日) 自治体保育労働者全国集会(横浜市)
- ・1月26日(金) 2007年新春機関紙のつどい(大阪機関紙会館)
- ・1月27日(土) 大阪府職労自治研究集会
- ・1月31日(水)~2月1日(木) 自治労連第34回中央委員会(福島県郡山市)
- ・2月3日(土)~4日(日) 自治体関連労働者全国交流集会(広島県・宮島)
- ・2月8日(木) 自治労連近畿ブロック2007年春闘学習会
- ・2月9日(金) 大阪自治労連第54回中央委員会(大阪グリーン会館)
- ・2月10日(土) 大阪地方自治研究集会「税と社会保障分科会」(グリーン会館)
- ・2月16日(金)~17日(土) 全国書記学習交流集会(広島市)

平和で豊かな社会は 男女平等と 女性の参画から



11月23日、国労大阪会館で、「第16回大阪地方自治研究集会」の男女平等分科会が「格差社会を変える男女平等の力」をタイトルに開催され、大阪自治労連の組合員や地域団体、住民など70人を超える参加者がありました。

基調報告に立った竹中道子さん(大阪自治労連婦人部常任委員)は、世界の中で日本の男女格差は79位であることをはじめ、さまざまな実態を示しながら「新自由主義の構造改革で、社会保障が切り捨てられ、格差社会が進行し、女性の社会参画がさらに困難になっているなか、今こそ憲法に

もついた地方自治・自治体行政の推進が求められている」として、「平和で真に豊かな社会をつくるために、男女平等・女性の参画を推進しましょう」と強調しました。

参加者からのリレートークでは、「配送業務のパートの労働者は、配送しながら共済の加入、組合員拡大もすすみたいへん。正規職員とは一時金、退職金にも大きな差がある。正規並みの賃金がほしい」(生協労働者)、「教育問題では『親の経済的収入によって、子どもの学歴が決まってしまふ』実態がある。大学の授業料の高さに驚いている」(女性団体)、「最近では、生徒の親など保護者の職業や仕事が多たたくかめない状況がある。就学援助の

子どもたちがクラスで3割から4割にもなっている」(教育労働者)、「国保が高すぎ。年金は低すぎる。生活できる年金額にしてほしい。業者の婦人は正当な家内労働の対価が認められていないのがおかしい」(中小業者)などの発言があり、地域や職場での実態が

参加者からの発言を受けて、講演した二宮厚美さん(神戸大学教授)は、いまこそ格差や男女差別、正規・非正規との差別を作り出す政府・企業とのたたかいが求められているとして「政府・財界は、男と女、正規と非正規、公務員と民間労働者を競争させ、敵対させて支配をしている。政府や企業が自ら差別をつくりだしている。自治体や学

校では露骨な男女差別はできないが、民間化を進めることで、非正規職員の女性をふやし、自治体部門で働く女性と競わせている。公務・公共部門でまず、男女平等を達成することが、運動を前進させるカギになる」と強調しました。

BOOK オン

(本の紹介)

まんが『蟹工船』

原作・小林多喜二 作画・藤生ゴオ



原作者の小林多喜二は1903年10月13日、秋田県大館生まれ。プロレタリア作家として、戦前の天皇制国家のもとで、戦争反対を掲げた生涯を貫きました。1933年2月20日、特高警察の拷問によって30歳の生涯を閉じました。多喜二の代表作が『蟹工船』。わずか30分で読めるプロレタリア文学の古典として、いま話題の本です。『蟹工船』は1929年に当時の雑誌「戦旗」に掲載。その後、戯曲化で舞台上で公演や映画化されたりしました。作品の舞台は1920年代の北海道。函館から出航する蟹工船「博光丸」では雑多な季節労働者が地獄のような労働条件のもとで酷使されていました。彼らは次第に団結しストライキを決定するが弾圧されてしまいます。しかし、相手の本質を学んだ労働者たちは、ふたたび闘いに立ち上がっていきます。

企画編集/白樺文学館多喜二ライブラリー
発売/東銀座出版社
定価571円+税